

まごころ

第6号

2010年

慈英病院
広報誌

敬老会

私は、明治39年5月2日
104歳でございます。
まだまだ、若いものには
負けませんよ。



娘さん、お孫さんに囲まれて
幸せいっぱいですね。
とっても幸せ…



お昼のお食事
です。
やわらかく工夫
しました。



とっても楽しかったです。
練習の成果ができましたよ。
毎週猛練習しましたから…
上手だったでしょ…ふふっ



よっ…ハマちゃん!

私は、介護士の濱田でござ
います。
本日は、誠にありがとう
ございました。

『排泄ケアについて』

当病院では、患者様の尊厳を最大限に尊重した排泄ケアを行うことを目的として、今年10月に排泄ケアチームを立ち上げ、更なるサービスの向上のための取組みを始めました。

10月、11月に排泄ケア勉強会を開き、『患者様にとって一番良い排泄ケアとは何か?』について話し合いました。患者様の排泄は、一人一人、量も違う、形状も違う、回数も違う、そして自分が失禁したら、こうして欲しいという思いを込めて、排泄についてスタッフ全員で検討しました。『オムツの中にしていいですよ』と言われても、寝たままではなかなかできないことも実際に体験して分かりました。勉強会で新しい紙オムツの導入、紙オムツの当て方、患者様一人一人にあった排泄ケア、生活の質(QOL)の向上、患者様の日頃の訴え、などについて話し合いました。11月から5名の患者様のご協力頂き、新しい紙オムツのテストをしたところ、患者様より『前のオムツより少し楽になったごつある』とのお声を頂き、12月から正式に変更しました。

今後も患者様の訴えに耳を傾け、そして患者様の表情を肌で感じ、少しでも患者様らしい生活ができるように、全職員が一体となってケアを行っていきたいと考えています。



(*指導者の下、患者様に実践しているところです。)

11月の排泄ケア勉強会の様子です。実際に新しいオムツを職員が試してみても、以前のオムツと比べてすっきりして動きやすくなっています。又、以前はパット(1枚または2枚)と外側のオムツ(1枚)でしたが、今回の新しい紙オムツは、パットをできるだけ使わず一枚のみで対応することからオムツをしてもごわつかず、かさばらない状態になりました。今後も患者様の状態に合わせて考えていきたいと思えます。



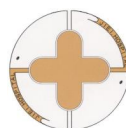
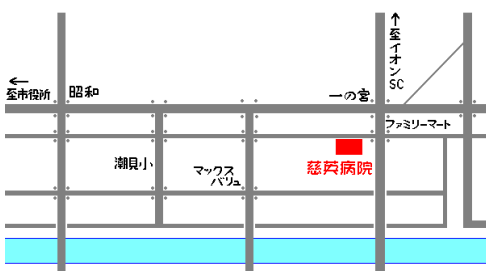
Before



After

頑張ります。
ご協力をお願い致します。

《排泄ケアチーム》



慈英病院

診療科目：内科・神経内科・リハビリテーション科
〒880-0853 宮崎市中西町160番地
TEL 0985-23-5000 FAX 0985-23-5886
<http://www.jiei.jp> e-mail info@jiei.jp

編集委員

泉 宏幸	清泰蔵
江藤裕子	高瀬祐枝
岡村勝広	竹迫彩
木村優子	富永亜津妙
黒木咲野	東洋一
砂地優宏	古市恵美子